

## 業績ハイライト

### 営業の概況<ほくほくフィナンシャルグループ連結>

(単位:億円)

	21年度		20年度
		前年度比	
経常収益	2,267	△128	2,396
経常利益	354	+140	213
当期純利益	192	△178	370
自己資本比率	10.83%	+0.02%	10.81%

当社における当連結会計年度の業績につきましては、連結経常収益は前年度比128億円減少し2,267億円、連結経常利益は前年度比140億円増加し354億円、連結当期純利益は前年度比178億円減少し192億円となりました。

連結自己資本比率は前年度比0.02%上昇し10.83%となりました。

### 営業の概況<北陸銀行・北海道銀行>

(単位:億円)

	2行合算		
	21年度		20年度
		前年度比	
経常収益	2,074	△111	2,185
コア業務粗利益	1,609	△74	1,683
経費(臨時処理分を除く)	944	+28	915
コア業務純益	664	△103	768
与信費用	255	△100	355
有価証券等関係損益	2	+179	△176
経常利益	368	+155	213
当期純利益	260	△118	379

銀行の本来業務の収益力を表すコア業務純益は、資金利益や役員取引等利益の減少と平成23年に予定する基幹システム更改に向けた経費の増加もあり、前年度比103億円減少の664億円となりました。

経常利益は、与信費用が前年度比100億円減少し、有価証券等関係損益が179億円改善したこともあり、前年度比155億円増加の368億円となりました。

当期純利益は、前年度の法人税等調整額が減少した特殊要因がなくなり260億円となりました。

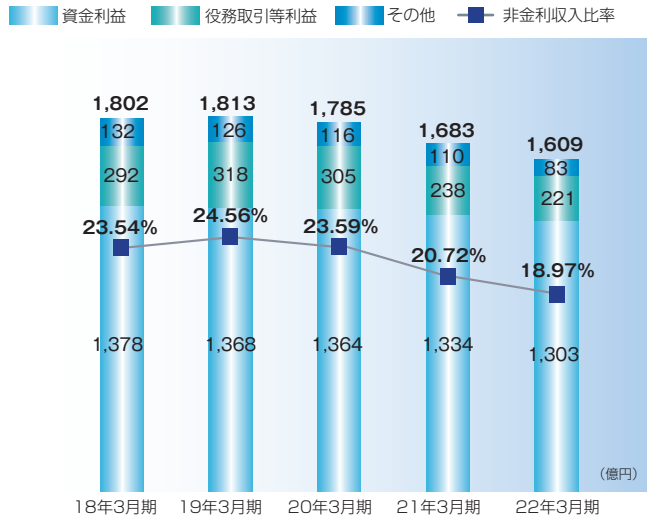
(単位:億円)

	北陸銀行		
	21年度		20年度
		前年度比	
経常収益	1,137	△105	1,242
コア業務粗利益	901	△46	947
経費(臨時処理分を除く)	518	+4	513
コア業務純益	383	△50	434
与信費用	134	△80	214
経常利益	199	+111	88
当期純利益	156	△107	264
自己資本比率	10.80%	+0.57%	10.23%

(単位:億円)

	北海道銀行		
	21年度		20年度
		前年度比	
経常収益	937	△5	943
コア業務粗利益	708	△27	735
経費(臨時処理分を除く)	426	+24	402
コア業務純益	281	△52	333
与信費用	120	△20	140
経常利益	169	+44	125
当期純利益	103	△10	114
自己資本比率	10.19%	△0.26%	10.45%

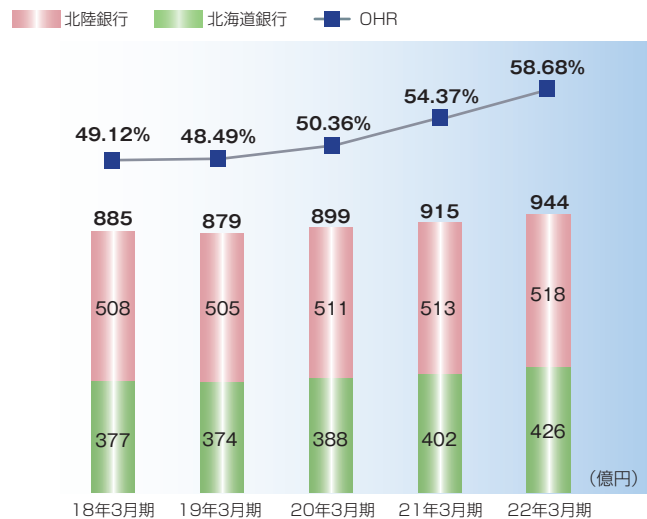
### コア業務粗利益<2行合算>



コア業務粗利益は、資金利益や役務取引等利益が減少したことから、前年度比74億円減少の1,609億円となりました。

- コア業務粗利益＝資金利益＋役務取引等利益＋その他  
一般の企業で言う「売上総利益」に相当する概念で、銀行の本業におけるおもとの利益、銀行が創造する価値の源泉です。
- 資金利益…貸出金、預金、有価証券等の利息収支等。
- 役務取引等…送金、投資信託、保険の取扱手数料等。
- その他…外国為替売買益やデリバティブ収益等。
- 非金利収入比率…コア業務粗利益のうち、資金利益以外が占める割合。

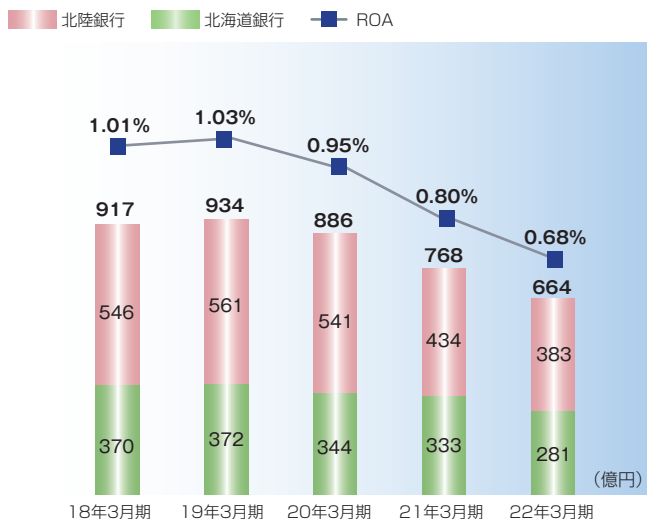
### 経費<2行合算>



経費は、営業人員増加、スタッフの直接雇用、システム投資の増加により、前年度比28億円増加の944億円となりました。OHRは地銀平均を上回る効率性を維持しております。

- 経費＝人件費＋物件費＋税金  
一般の企業で言う「販売費及び一般管理費」に相当します。
- OHR＝経費÷コア業務粗利益  
少ない経費でいかに多くの利益をあげているかを示す指標で、数値が低いほど効率的です。

### コア業務純益<2行合算>

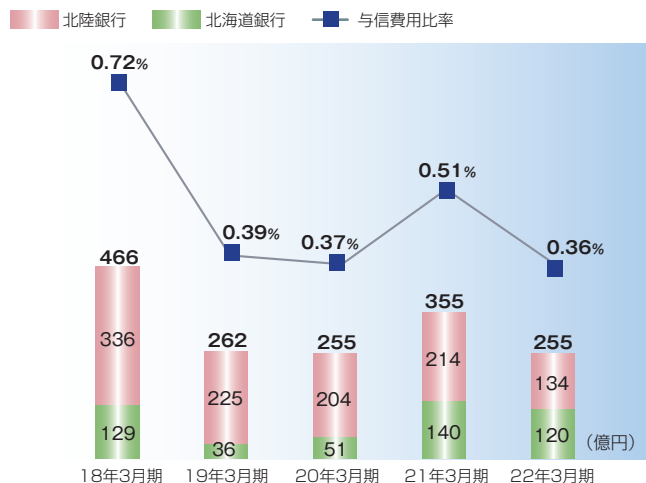


コア業務純益は、粗利益の減少、経費の増加により、前年度比103億円減少の664億円となりました。

- コア業務純益＝コア業務粗利益－経費  
一般の企業で言う「営業利益」に相当し、銀行の本業の成果を示したもので、銀行特有の指標です。
- ROA＝コア業務純益÷総資産(期中平均)  
資産をいかに有効に活用して利益を上げているかを示す指標で、数値が高いほど効率的です。

# 業績ハイライト

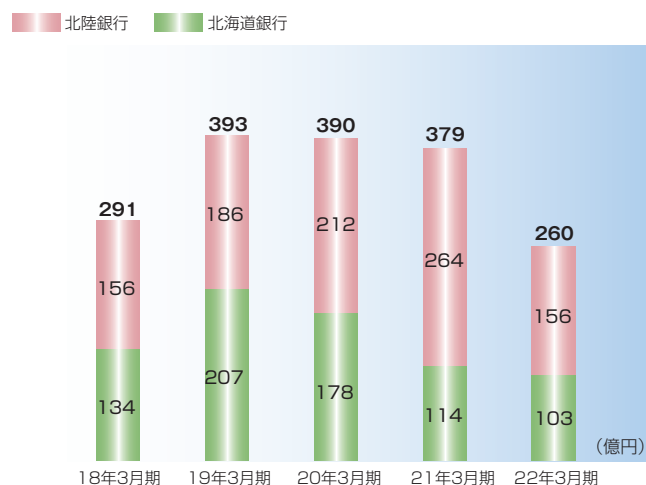
## 与信費用 <2行合算>



与信費用は、前年度比100億円減少し、255億円となりました。

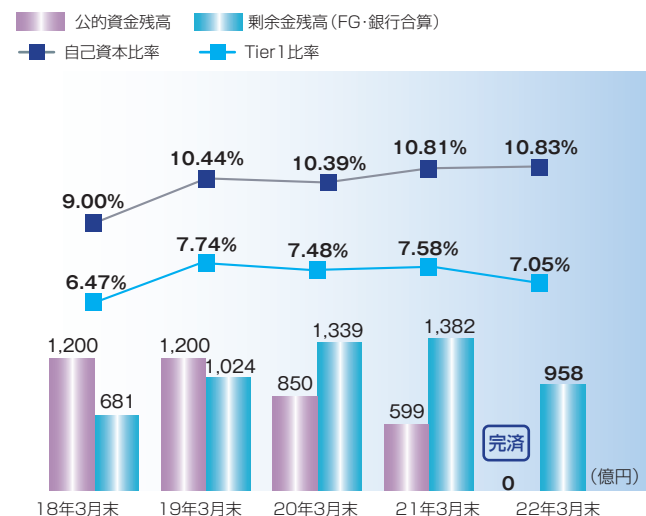
- 与信費用=不良債権処理額+一般貸倒引当金繰入額
- 与信費用比率=与信費用÷貸出金平残  
与信費用と貸出残高とを対比した指標で、不良債権処理の費用割合の多寡を示しています。

## 当期純利益 <2行合算>



当期純利益は、法人税等調整額の増加もあり、前年度比118億円減少の260億円となりました。

## 自己資本比率 <FG連結>



自己資本比率は、利益の着実な積上げにより、前期末比0.02%上昇し、10.83%となりました。なお、平成21年8月に公的資金を完済しております。

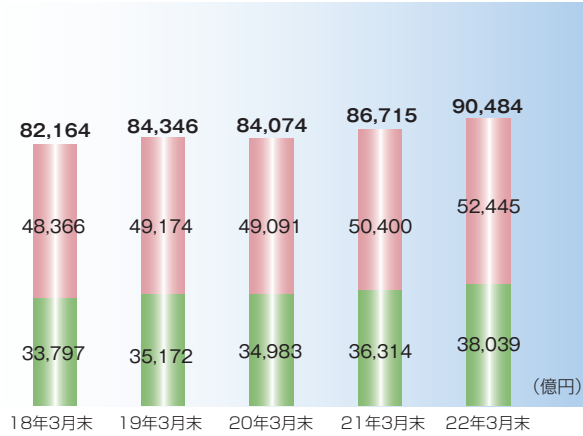
■自己資本比率…自己資本(資本金や利益の蓄積等)が資産に比べてどの程度充実しているかを示します。この比率が高いほど安全性・健全性が高いといえます。

■Tier1比率…リスク・アセット(貸出金等の資産)に対するTier1(自己資本の基本的項目である資本金・資本剰余金・利益剰余金等)の割合を示したもので銀行の本質的な健全性を示すものです。

※平成19年3月から自己資本比率算出について新しい基準(パーゼルⅡ)を適用しております。平成18年3月以前は旧基準により算出しております。

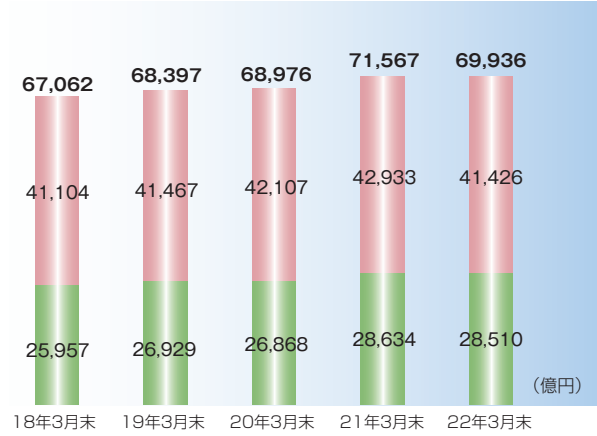
### 預金 <2行合算>

北陸銀行 北海道銀行



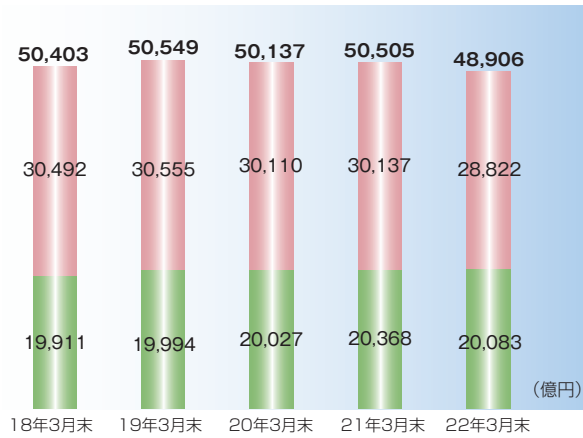
### 貸出金 <2行合算+分割子会社>

北陸銀行+分割子会社 北海道銀行



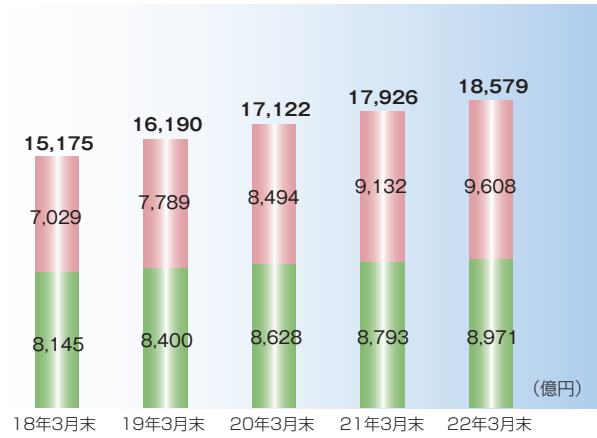
### 中小企業等貸出残高 <2行合算+分割子会社>

北陸銀行+分割子会社 北海道銀行



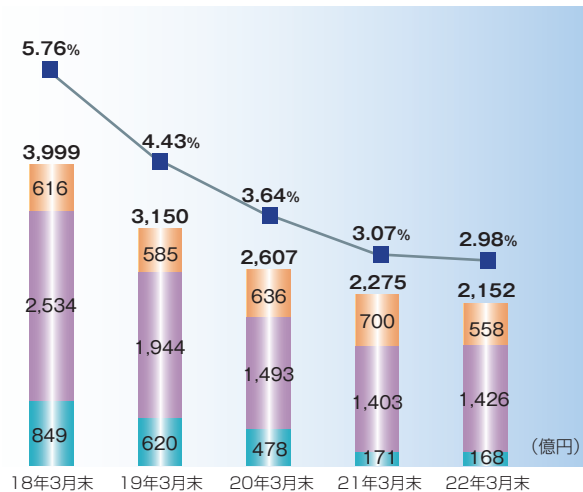
### 住宅系ローン残高<2行合算>

北陸銀行 北海道銀行



### 金融再生法開示債権 <2行合算+分割子会社>

破産更生債権及びこれらに準ずる債権 危険債権  
要管理債権 開示債権比率



金融再生法開示債権は、前期末比122億円減少し、2,152億円となりました。開示債権比率は、前期末比0.09%低下し、2.98%となりました。

■金融再生法開示債権・・・金融再生法（金融機能の再生のための緊急措置に関する法律）に基づく基準により、貸出金等の分類を公表しています。

■開示対象債権・・・貸出金及び支払承諾見返、外国為替、未収利息、仮払金、貸付有価証券、自行保証付私募債。但し、要管理債権は貸出金、自行保証付私募債のみ。

■破産更生債権及びこれらに準ずる債権・・・破産、会社更生等の事由により経営破綻に陥っているお取引先に対する債権及びこれらに準ずる債権のことです。

■危険債権・・・お取引先が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本及び利息の受取ができない可能性の高い債権のことです。

■要管理債権・・・3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権（「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」を除く）のことです。

■開示債権比率・・・総与信に占める金融再生法開示債権の割合を示しています。この比率が低いほど健全性が高いといえます。